



＜来週の資金需給予想とイベント予定＞

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/17 (月)	+ 400	+ 1,900	+ 2,300	流動性供給 国債発行償還（個人） 国庫短期証券発行償還（3M）	国債補完供給 + 200		日：GDP（2Q） 鉱工業生産（6月）
8/18 (火)	▲ 500	+ 2,000	+ 1,500		被災地支援 ▲ 100		
8/19 (水)	+ 500	▲ 28,000	▲ 27,500	国債発行（5年）	共通担保 ▲ 8,000		米：FOMC議事要旨（7月28、29日開催分） 欧：ユーロ圏CPI（7月）
8/20 (木)	トン	+ 27,000	+ 27,000	国庫短期証券発行償還（1Y） 各種財政資金の支払い			日：貿易収支（7月）
8/21 (金)	+ 500	▲ 12,000	▲ 11,500	国債発行（20年）			日：CPI（7月） 米：PMI（8月、速報値） 欧：ユーロ圏PMI（8月、速報値） ユーロ圏消費者信頼感指数（8月）

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比2,900億円増加の419兆1,400億円から始まった。その後、源泉所得税揚げや年金定時払い等の要因により増減し、14日は425兆6,100億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.977%から始まり、その後も概ね横ばいで推移した。

ターム物は1W～3W物0.982%～1.065%のレンジ、1M～3M物1.090%～1.280%のレンジで出合いが見られた。

来週の予定は、国内では17日にGDP（2Q）、21日にCPI（7月）の公表、海外では19日にFOMC議事要旨（7月28、29日開催分）、ユーロ圏CPI（7月）の公表などがある。

【無担保コールレート】

	予想レンジ（%）
O/N	0.950 ～ 0.978
1M	1.05 ～ 1.10
2M	1.10 ～ 1.28
3M	1.20 ～ 1.30
6M	1.30 ～ 1.50

＜レボ＞

足許GCは週を通して1.000%～1.005%の狭いレンジでの出合いとなった。買い入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年484～486回債、5年180～186回債、10年361～372、379～383回債、20年194～196回債、30年87～90回債などに引合いが見られた。

【オープン市場】

	予想レンジ（%）
現先 (on/1w)	0.90台
CP 3M (a-1+)	1.2 ～ 1.3

＜CP＞

今週の入札発行総額は6,390億円で、週間償還額の9,145億円を下回った。発行残高は、先週末時点の25兆9,317億円から、8月13日時点で25兆5,075億円へと減少した。発行市場は、企業の夏季休業期間にあたり、閑散としていたものの、石油製品・その他金融業などの一部の業種において、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.0%台から1.1%台、3ヶ月物で1.2%程度から1.3%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆9,000億円となっている。発行市場は、企業の夏季休業明けで発行ニーズが旺盛になることから、活況なマーケットが見込まれる。発行レートについては、日本銀行による利上げ継続姿勢が示されていることから、引き続き水準を探る展開が続くだろう。

＜TDB＞

14日の3M（第1400回債）の入札は、最高落札利回り1.0979%（前回債1.0738%）、平均落札利回り1.0919%（前回債1.0665%）となった。

来週の入札は19日に1Y、21日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。